

ならばい・たより

地元農家

行政

市民

三者協働による里山再生を目指します。

ゆいのさと
NPO法人まちだ結の里

3月からの活動、事象を時系列で記載していきます。

- 1) 3月15日(水) ソバ畑の耕起、中央通路の道普請、市の設置した土留め部位に試しにくスイカズラ、センニンソウ、クサボケ等を移植



- 2) 3月18日(土) 竹林の杭打ち、中央通路補修。水路の補修

竹林と栗林の境界に杭を打ち込み、ロープを張り民地との境をはっきりとさせ散策者がはまらないようにした。



3) 3月22日(水) 炭小屋周りの整理、中央通路の補修、カボチャの種蒔、玉切りした材木を薪にする



4) 3月25日(土) 畔の補修、水路の整理・補修、南通路(外周)の補修

5) 3月29日(水) ほだ場(上及び下)の整理・清掃、サツマイモ・カボチャの種蒔



6) 4月1日(土) 種籾の選別 写真(菊池さん)



真水選

温水消毒

水漬け

7) 4月5日(水) 小麦畑周りのネットの撤去・草取り、北通路の整理、富士見台斜面の廃棄物の撤去



8) 4月8日(土) 田起こし、稲苗用畑の準備



9) 4月9日(日) 植物観察会

内野講師をお迎えして、恒例の春の植観察会です。アカネスミレ・オカスミレ・タチツボスミレ・シュンラン・ジュウニヒトエ・イチヤクソウ・ヤブレガサ・ハンショウズル・イチリンソウ・ウラシマソウ・ヒメオドリコソウ

10) 4月12日(水) タケノコ掘りイベント準備、ほだ場及び周辺の整理



11) 4月15日(土) 稲の種蒔 写真(荒井さん)



12) 4月19日(水) ソバの種蒔、水路周辺・畔の草刈り、ほだ木の移動、タケノコ掘りイベント準備
畝の間隔を約60CMとし、長さ約15MX10本、長さ約20MX9本の畝を作り種をまく(使用種約3.5KG)



13) 4月22日(土) 田起こし&畔の修復、バイオトイレ横の斜面の木の伐採、近隣農家の手伝い
電線に被さっている木の伐採&枝葉の処理、新しく出てきたタケノコにイベント用の目印をつける。

1 4) 4月26日(水) 草刈り、ネギの植付け、ジャガイモの芽かき・害虫駆除、セイタカアワダチソウ駆除



1 5) 4月29日(土) 田起こし&畔の修復、タケノコ掘りイベントの準備



相武マラソン

イカリソウ

1 6) 4月30日(日) タケノコ堀イベント当日



1 7) 5月3日(水) ジャガイモの土寄せ・害虫駆除、菜の花の種取り、第三梅林の草刈り・耕起



ヤセウツボ

1 8) 5月6日(土) 田んぼの畔の修復、セイタカアワダチソウ駆除、トマト・カボチャの苗の植付け



19) 5月10日(水) 孟宗竹の整備、田んぼの畔の草刈り



竹チップ



竹チップを林床(?)に撒く



落花生の種を取り出す

20) 5月13日(土) 畔ぬり・水路整備、田植えの予定等について打合せ

作業開始時から降っていた雨が強くなり、作業をやめクラブハウスに引揚げて、道具の手入れ・片づけを行う
切通しに枯枝が落下した件で市役所・小田急と話し合いの結果、小田急が、切通し上の木にひっかかっている残りの枯枝を落とすか木を伐採かのいずれかを近いうちに行う予定

21) 5月14日(日) 植物観察会

今日の観察コースは、トトキ谷戸→池周辺→田んぼ南側斜面→ネムノキ広場、→階段經由南通路→見晴らし台→鉄塔下→萌芽更新林

22) 5月17日(水) 落花生の種蒔、植物の保全、トマトの苗の植付け、東谷戸畦草刈り



23) 5月20日(土) 田起こし、畔の補修、刈り取った畔の草の処理

田起こし、耕運機が入らないと思われるところから田起こし開始
畔の補修、陥没した箇所に入土を入れる等して補修を行う
解散後、有志によりクラブハウスから水を運び、稲の苗に水やりをやって頂く

24) 5月24日(水) 里芋の植付け、野菜苗の植付け、花暦調査



保存した種芋の掘り出し



種芋の植え付け



唐辛子の植え付け

25) 5月27日(土) 田起こし&くろ付け

本日も20日に引き続き男子高校生がボランティアとして活動に参加(午前中)



畦に大きな穴

26) 5月31日(水) 荒かき、代掻き、くろ付け

6月3日(土) 田んぼに水入れ・荒かき・代掻き・くろ付け・仕上げ(奈良ばい谷戸)

ジャガイモの害虫駆除、田んぼに水入れ・荒かき・(東谷戸)



写真 中尾博さん

27) 6月7日(水) シイタケ原木の天地返し、トマト等野菜畑周囲のネット張り(外敵保護)

イヌザクラ広場周辺の草刈り、カボチャの苗に藁を敷く、稲の苗の受け取り、ネムノキ広場&周辺の刈取り済の草の堆肥舎への投入、藁ぼっちの解体



28) 6月10日(土) 水張等田植えの準備、苗取り、明日の田植えに参加する家族への対応等打合せ



29) 6月11日(日) 田植えのイベント

① 田植え体験参加者: 5組16名(大人9名、子供7名)

② 町田第三中学校田植え体験参加者: 中学生9名、校長先生他先生6名(その家族7名)、保護者3名

30) 6月13日(火) トトキ谷戸の田んぼの代かき・仕上げ、東谷戸の田んぼの代かき等(谷合さんの田んぼ)

31) 6月14日(水) 東谷戸の田んぼの代かき等(谷合さんの田んぼ)

水の入っている田んぼを優先的に、各田んぼの状況を見ながら、荒かき・代掻き・仕上げを行う
耕運機でできるところは極力耕運機を使用するも、ぬかるみでは苦戦



まだ水が足りていない。



下の2枚は代掻きができない



今までの5枚代掻きができない



ウツボグサ



ノカンゾウ?にナミアゲハ

32) 稲の栽培について

稲を作る作業を列挙してみました。(足りない作業がありますが、とりあえず列挙)

- ・種籾の選別 ^{しゅしよそ} 種子予措健康な苗を育てるために種籾を選別し給水させる作業(インターネットより)

種籾を選択後、水につける(水温×日数=100を目安)毎日水の交換を行う。

浸種(種籾を水につけること)

芽だし(催芽、もみの芽の部分が鳩胸のように膨らむ)



- ・苗床作り (奈良ばいでは通常の畑を耕し苗床としている。正式な水苗床はやったことがない)



- ・籾撒き 苗床に種籾を撒き、土をかぶせ燻炭で覆う、現在は燻炭が飛ばないようにパオパオで覆い苗床を保護 燻炭のおかげで光が当たらないため雑草が育ちにくくなる。

必要により稲以外の草取りを行う、乾燥のときは水まきも行う。



- ・田起し、これは荒かき、代掻き、畔付けを行い、田植えができる状態にする、畔付けの時は田んぼに水が必要



- ・田植え 苗床から苗を取り、その土はその場で水洗いをする。土は他へもっていかない。



- ・水管理 苗の根が活着するまでは深水（苗が水没しない程度）活着後は浅水（2から4Cm）
 水は、養分や水分の供給、雑草の発生を抑える、肥料効果の調節、保温などの働きがある。
 分けつが最高な時に水を落とす（中干、これは落水と湛水を数日ごとに繰り返す、奈良ばいでは行わない）
 出穂（稲に穂が出てくること）・開花期のこのころの水やりを花水という。
 出穂後 35 日ごろから落水を行い稲刈りに備える。 このころの田んぼの水温は 40℃程度になる。
- ・出穂までに数回稲周りの雑草取りと、稲の根に空気が回る様に根回りの土を掻く。（稲が浮いてしまってはダメ）



・稲は風媒花なので、稲の花は朝早くだと見られます。（私はまだ開いた状態を見ていない。）

- ・稲刈り 稲かけの馬を作る、刈り取った稲をまとめる藁の準備、鋸鎌を使い稲刈りを行う。
 天日干しなので馬に架けた稲の上部に覆いをかけて雨で水分の供給がされないようにする。



- ・脱穀 稲の穂からお米を粒にする。
 脱穀後の藁をまとめて藁が利用出来るように再度干す。
 小さい塊をスズメボッチ、大きく纏めたものが藁ボッチと言っている。



・ 粃干し 天日で粃を干す、シートに広げた粃を適当な時間に裏返して干していく。



・ 粃摺り



・ 精米 やっと食卓にのります。5月に始まった作業の最終状態です。

ここまで、結構面白い言葉も出てきました、花水、スズメボッチの「ボッチ」、畦、畔、代掻き、また田起しの事は田うないとも言うようです、漢字で書くと田耨になるようで「うなう（耨）田畑の土を鋤（くわ）で掘り起こして、畝（うね）を作る。耕す。」

気になる言葉は、あぜ（畦）とくろ（畔）の違いです。字が違うのですから元は違う意味だったのではないかと考えています。以前聞いた話なのですが、畦は歩いて奥の田畑へ行くことのできるもの、畔は田んぼの中に水を温めるために畦に沿って細い水路を作り田んぼに直接冷たい水が入らないようにしたもの、と聞いた気がしています。

今はどこを調べても畦も畔も同じような意味で使われています、こんな語源をちょっと調べるのも面白そうですね。

以上